

高齢者施設における 新型コロナウイルス感染対策事例集

はじめに

本市の高齢者施設において令和3年2月にクラスター発生以降、感染拡大防止や陽性者発生時の施設内療養に備えることを目的にアンケート調査や研修、巡回点検を実施しました。これらを通して、施設内での課題として、大きく分けて6つの項目があがりました。この6つの項目を中心に、実際に施設が行っていた参考となる取り組みを集めた事例集を作成しました。本事例集が対応の全てではないことを御理解いただいたうえで、平時からの対策にご活用ください。

この度、事例を御紹介いただいた高齢者施設、また巡回点検ならびにアンケートに御協力いただいた高齢者施設の皆様方にお礼を申し上げます。

目次

1 情報共有.....	p1
2 シミュレーション.....	p4
3 マニュアル.....	p7
4 感染対策.....	p9
5 医療体制・応援体制.....	p9
6 認知症の方への対応.....	p10

1 情報共有

(1) SNS(LINE 等)

◆グループラインを作成し情報共有を実施

【メンバーの構成の例】

- ・医師や訪問看護師等の関係機関と施設
- ・法人内の管理者同士
- ・施設職員全体
- ・(法人がない場合等)近隣の施設間

【共有する内容の例】

・入所者のバイタルサインの値や検査結果等

- 👤 入所者の皮膚の状態が気になった時皮膚の写真の撮って医師に送り、すぐに見てもらうことが出来た。
- 👤 電話よりも早く、かつ一斉に情報の共有ができ、時間短縮に繋がった。

・往診での診察内容や結果

・朝会の伝達事項やケアの変更点

・陽性者の名前、発症日、療養期間等

- 👤 法人内の施設で陽性者数等を共有することで、各施設での感染拡大の程度・職員の人手不足の状況を把握し、応援体制を整えることが出来た。

個人情報の取り扱いには注意が必要ですね。



(2) 掲示物(掲示板、ホワイトボード、模造紙等)

◆掲示物を利用して職員間の情報共有を実施

【掲示物の内容の例】

・医療機関等の連絡先や陽性者発生時のフロー図

- 👤 医療機関の連絡先は、実際に対応する電話の近くの場所に貼ることで、スムーズに行えた。

・陽性者発生時の入所者への注意事項(部屋での待機や食事についてのお願い)

- 👤 居室のドアなど入所者から見える位置に入所者への説明を掲示することで、居室にとどまることが可能な入所者が増えた。

・陽性者発生時の職員への注意事項

- 👤 職員がケアをする上で必要な、配膳時の注意事項やゴミの捨て方、職員が使用する階段の周知などを掲示することで確実に対応することが出来た。
- 👤 個人防護具を着用する場所、脱ぐ場所などが誰にでもわかるように「ここで着る」「ここで脱ぐ」など分かりやすい表現でポスターを作りその場所に掲示した。

色を付けたり、写真を貼付すると分かりやすいですね。

【共有する内容の例】

・陽性者の名前、発症日、療養期間、ケアの変更点

👤 発生状況を記載し、療養解除となったら消していくことで、全職員が最新の情報を把握することが出来た。

・陽性者、濃厚接触者の情報

👤 陽性者が誰か分かるように部屋の図面に色シールを貼って区別することで、ケアをする時に、分かりやすくなった。

・陽性者一人一人のケアの実施状況や職員の役割

👤 一人一人の陽性者について、ケアの内容や注意点など記入欄があるチェック表を活用し、確実にケアを実施することが出来た。

<参考例>

項目	チェック	内容	備考欄
清掃		居室掃除(隔離期間中は行わない)	
		ごみ捨て 使用した者は袋に密封して部屋に置く。 毎日回収。 (※居室ごみは回収後二重に袋入れを行い、 日付を入れて3日放置。その後ごみ出し。)	(/) (/) (/) (/) (/) (/) (/) (/) (/) 昼食時にごみ捨て対応。 ※ごみ捨て日は、管理スタッフに報告。 廃棄日は袋に記入する。
		解除後の消毒	スタッフ2人(/ 10時~)

👤 関係機関への連絡など職員の業務内容についてチェック表を活用することで、陽性者発生時の混乱した状況でも対応することが出来た。

<参考例>

担当者	チェック	内容	備考欄
介護責任者 ()		ケアマネジャーへ連絡	
		関係事業者へ連絡(ケアマネジャーより連絡)	
		対象者のサービス内容確認(ケアマネジャー)	
		デイサービス利用再開日の確認	
		〇〇へ連絡	
		ご本人への説明 基本、居室内で自主隔離生活。 【説明内容】 ・コロナ発生事実 ・部屋から出ない ・食事は配膳 ・薬は部屋で内服 ・スタッフが定期的に訪問(防護服を着用して)	朝食配膳時間確認(通常・9時)



(3)研修会・勉強会

◆研修会や勉強会で情報共有や意見交換を実施し、認識の統一や意識づけを行う

【事業所内での実施内容の例】

・マニュアルの読み合わせ

👤 全職員が参加できるように日程調整を行い、複数回にわたって実施することで、全職員の認識を統一している。

・動画視聴

👤 毎月テーマを決めてそのテーマに沿った動画を視聴し、報告書を提出してもらい、職員の感染対策への意識付けを行っている。

・看護職等による个人防护具の着脱訓練

👤 个人防护具の着脱訓練を抜き打ちで実施することで、職員が緊張感をもって実施することができる。

👤 平時に訓練をしても緊張感がなく身につかないため、陽性者が一人出た時など、タイミングをみて訓練を実施した。

【外部講師による研修会の例】

・外部講師(感染症専門看護師等)を招き、研修会を開催

・病院からの指導

👤 感染症専門看護師など専門職からの助言があることで、施設で取り組んでいる内容の確認ができ、職員のスキルアップや安心につながる。



(4)ミーティング

◆ミーティングにて情報共有を実施。

【実施方法の例】

・ミーティングを複数回実施

👤 ミーティングを朝、夕の2回実施。また必要時には適宜実施している。

・zoom等の活用

👤 zoom等のオンライン会議を利用している。



(5)タブレット

◆タブレットを活用し情報の共有や管理をする。

【共有内容の例】

・法人内の情報

👤 入所者の状態やスタッフの対応記録などの情報、法人内の他施設の情報などが一元管理でき、法人での情報共有が容易になった。

・入所者の健康観察の情報

👤 バイタルサイン等が基準値を満たさない場合はサインが表示されるように設定しており、職員全体で共有が瞬時に行えるため、状態をきちんと把握できる。紙よりも手間が省け効率化でき、その分入所者のケアに時間をかけることができている。



2 シミュレーション

(1) 個人防護具の着脱訓練

- ・看護師と介護士がペアで実施
- ・確認役をたてて実施

👤 看護師とペアになって実施したり、確認役をたてて着脱ができていないかチェックをすることで、正しい着脱手順の確認が出来た。

(2) ゾーニング

【ゾーニングの例】…ゾーニングの参考例は5ページを参照

- ・色付きのテープでレッドゾーンの印をつける
- ・空室を陽性者発生時の部屋と仮定してゾーニングし、練習場所とする

👤 平時から、陽性者が発生した場合にどの部分をレッドゾーンとするか決めておいた。また、居室をレッドゾーンとしたときの物品の配置について、空室を利用して実際に確認をしておいた。

(3) 物品確保

- ・平時からの管理

👤 平時からデータや紙で在庫の確認を行い、必要時購入をすることで、陽性者発生時に備えている。

- ・感染対策用セットの準備

セットの例は6ページを参照。

陽性者発生時は、
想定よりも物品の
消費が早く、不足
している施設が多
くありました。

(4) 食事

- ・部屋で食事が可能な入所者や必要なケアの程度などの把握
(スタッフの業務量把握のため)

👤 陽性者発生時は、食堂で入所者全員が食事をする事は感染対策の観点からは難しい状況となる。そのため、事前に、部屋での食事が可能な入所者や、介助がどの程度必要かを把握し、人員配置を考えた。

(5) スタッフ

- ・勤務体制を経験年数や職種などをもとに、職員配置を考える
- ・陽性者発生時、必要最少人数の職員を想定

👤 陽性者発生時は職員の人手不足が想定されるため、事前に施設全体の業務を考慮し、経験年数や職種をもとに職員配置を検討した。

感染対策用物品セットの例



工夫点

上の写真の物品を一つのバッグにまとめておくことで、必要時、すぐに対応ができるように工夫をしていました。

施設の声

職員が主体となって感染対策用物品セットの内容や置き場を考えて平時から準備しておくことで、陽性者発生時にすぐに対応することが出来ました。

(例)感染対策用物品セット 1回分



マスク



手袋



フェイスシールド



キャップ



ガウン



ごみ箱



消毒液



体温計



パルスオキシメーター

など

3 マニュアル

(1)陽性者発生時の家族への説明文書(濃厚接触者を含む)の作成

- 事前に説明文を作成することで、発生時に入所者の家族に対して、誰でも統一した説明を実施することが出来た。

(2)業務内容の整理

- 陽性者が判明した時には、すでに感染が拡大しており、人手不足の状況になることがあるため、平時に業務内容の整理(優先順位を検討)を行うことで、陽性者発生時に職員が少ない体制でも迅速に対応が出来た。

優先順位の考え方の例

誤嚥性肺炎防止のため、口腔ケアは維持し、入浴は清拭に変更等


<参考例>

感染拡大時の対応		RO年〇月更新
想定	陽性者〇名・濃厚接触者〇名発生したとする。	※全入居者隔離対応※
	現状	感染時の対応
リネン交換	週〇回・汚染時	陽性、濃厚接触者のみ中止。汚染時は交換。隔離解除後に対応
配茶(水分補給)	食事・おやつ・入浴前後・希望時	配茶1日〇回など、その他提供時は陽性者・濃厚接触者のみ紙コップで提供。
ごみ収集	毎日〇時	毎日〇時 注意事項記載
居室・共有部分の清掃	〇〇対応	〇〇対応
入浴	週〇回	中止。清拭対応
ラジオ体操	毎日	中止
日々レク	毎日	中止
食事・おやつ	〇〇おやつ	変更なし
口腔ケア	毎食後・おやつ後	変更なし
集団・個別リハ	各週〇回	中止
排泄介助	食事前後・ナースコール・定時での対応	感染対応の職員が対応。陽性、濃厚接触者大パット使用し〇時間毎
陰部洗浄	対象者のみ入浴日以外に実施	対象者毎日対応
巡視	〇時間おき	〇時間おき
委員会・会議	定期的に開催	中止
【 1日の最低必要人数 】		
事務	通常〇名 土日祝〇名	〇名
看護	通常〇名 土日祝〇名	〇名
機能訓練	〇名	〇名
介護	リーダー含め、通常〇名 土日祝〇名	日勤帯各フロア〇名 夜勤帯〇名
清掃・ドライバー	〇名	〇名

(3)陽性者発生時の、職員の1日の業務の流れ(食事や洗濯・ゴミ捨てなど)を作成

- 業務別に具体的な内容を記載していたため、陽性者発生時に慌てず対応が出来た。

(4)陽性者発生時の職種別の役割分担表の作成

 職種別の役割分担表を作成することで、一目で分かり、管理が行いやすかった。


<参考例>

役割		日付	
		0日	1日
施設長	施設外の対応 面会中止の発令	<input type="checkbox"/>	北九州市発生届出
		<input type="checkbox"/>	〇〇病院本部届出
		<input type="checkbox"/>	関係機関への連絡
		<input type="checkbox"/>	入所家族への文章報告
		<input type="checkbox"/>	入所者・職員健康状態把握
事務職員 A	医療材料の発注 物品購入 部外者・業者対応 感染性廃棄物の処理	<input type="checkbox"/>	必要物品発注
		<input type="checkbox"/>	在庫確認
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
事務職員 B	掃除職員の采配 掲示物の準備・貼り出し 部外者・業者対応	<input type="checkbox"/>	清掃職員配置
		<input type="checkbox"/>	清掃箇所の指示
		<input type="checkbox"/>	私物選択の対応
		<input type="checkbox"/>	理美容業者連絡
		<input type="checkbox"/>	販売業者連絡
		<input type="checkbox"/>	他入所者家族対応




陽性者 1 人につき 1 枚、療養期間の 0~10 日目まで、職種別に役割分担した表を作成し、一目で分かるようにしていました！

(5)個人防護具の着脱手順を掲示

 個人防護具の着脱は、図にポイントやチェック欄をいれる(触らない場所など)ことで、正しく着脱ができるようにした。

(6)感染対策をフェーズごとに分けて作成

 感染状況をフェーズごとに分け、状況に応じた感染対策を行っている。



4 感染対策

(1) 食事について

- 👤 食事時間を2部制にして、一度に集まる人数を減らした。
- 👤 4人掛けのテーブルに対角に2人が座るような配席にし、距離を取るようにした。

(2) 換気について

- 👤 窓を開けると風が直接入所者にあたって暑かったり、寒かったりすることがある場合は、入所者から離れたところの窓を開けて、換気を行った。



(3) 消毒について

- 👤 希釈の方法をペットボトル本体に記載し、誰がみても同じ割合で希釈できるように分かりやすくした。



5 医療体制・応援体制

(1) 医療機関との連携

- 👤 事前に関連の医療機関と発熱等体調不良時の対応について話し合っておくことで、陽性者発生時の報告が医療機関にすぐにでき、医師より指示やゾーニングのアドバイスをもらえたことで、感染拡大を抑えスタッフの安心感につながった。

(2) 看護職との連携

- 👤 平時から訪問看護ステーションと連携をしていたため、陽性者発生時にすぐに相談ができ、感染対策の助言をもらえた。

(3) 法人内との連携

- 👤 法人内の施設で事前に人手不足時の応援体制について話し合っていたことで、陽性者発生時に応援体制を組むことが出来た。

(4) 応援を受け入れるための準備

- 👤 入所者のケアのポイントをまとめておく(24時間ケアシート等)ことで、応援にきた職員への引継ぎをスムーズに行えた。ケアのポイントの内容としては、食事の誘導の仕方や排泄介助のポイントなど、入所者それぞれの特徴とした。



陽性者が発生した時に備えて、かかりつけ医や訪問看護ステーションなどに対応について事前に確認をしておくことが大切ですね。



6 認知症の方への対応



【平時の対応】

(1)入所者の体調不良の早期発見

- 👤 1日2回以上の健康観察や、入所者が集まる前に健康観察を実施することで、すぐに異変に気づけるようにした。バイタルサイン以外でも、食欲の低下や、いつもと動きが違う等の小さな異変も確認し、医師に相談することで、早期発見に繋げることが出来た。

(2)入所者にマスクの着用を促す

【対策例】

- 👤 マスクの着用について、職員全員で入所者に促し続け、マスクの着用率が上がった。
- 👤 マスクに絵を描き可愛くすることで、着用したくなるようにした。

【陽性者発生時の対応】

(3)職員の防護

- 👤 認知症の方に感染対策の理解は得られにくい場合も多いため、スタッフが自らを防護する対策に重点を置くことで、入所者と職員間での感染のリスクを抑えることが出来た。

【対策例】

・健康観察の強化

- 👤 健康観察を出勤前と退勤前の2回実施することで、有症状であることが判明した場合に、病院に行く・翌日は休むなどの判断ができ、翌日以降の対応が迅速に行えた。

・マスクの着用が出来ない入所者と密に接触する際はフェイスシールドを着用

- 👤 ウイルスは目からも入ってくるため、フェイスシールドやゴーグルを着用することで、飛沫感染を防ぐことが出来た。


・職員の同居家族の感染状況の把握

- 👤 職員が濃厚接触者に該当するかどうかの確認を行うことで、施設にウイルスが入ってくる感染ルートを遮断するための対策を取ることが出来た。また早目に適切な人員配置を考えることが出来た。


(4)担当職員の固定

- 👤 人員の確保が必要だが、担当職員を決めることで、感染拡大を防ぐことが出来た。


(5)パーテーションなどを活用して、入所者の歩く範囲を限定

 入所者の動線を一方にでき、グリーンゾーンの確保が確実に出来た。

(6)居室にとどまれる方への対応

 感染していない入所者はなるべく居室で過ごしていただくことで、感染を防ぐことが出来た。

(7)見守りカメラの設置

 入所者の部屋に見守りカメラを設置し、動いたときにスタッフ全員に通知がいくようにすることで、迅速に対応が出来た。

見守りカメラの設置については、入所者やご家族、職員のプライバシーに関わるため、了承を得たうえで検討する必要がありますね。



5類移行後も、感染対策は続きます。

陽性者発生時に入所者や職員が慌てずに対応できるよう、

平常から想定して準備をしましょう。





高齢者施設における新型コロナウイルス感染対策事例集

令和5年(2023)4月 発行

編集・発行 北九州市保健福祉局感染症医療対策部感染症医療対策課

〒802-8560 福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目 7 番 1 号

TEL:093-522-8711 FAX:093-522-8775